

研究発表もうしこみフォーム

氏名：スチンバト・竹越孝

氏名のローマ字表記：Sechenbat, Takashi Takekoshi

所属：内蒙古大学（スチンバト）・神戸市外国語大学（竹越孝）

専門分野：モンゴル語学（スチンバト）・中国語学（竹越孝）

発表のタイトル：『一百条』系諸本の成立過程と継承関係

発表要旨（600字～800字程度）：

本発表は、清代に刊行された満洲語の教材『Tanggū Meyen』（一百条）から派生した文献群「『一百条』系諸本」の成立過程と継承関係について考察するものである。『一百条』系諸本は、満洲語だけのテキストから、満洲語と中国語の対訳版、モンゴル語と中国語の対訳版、満洲語とモンゴル語の対訳版、満洲語・モンゴル語・中国語の三言語対訳版など、様々な言語に拡張していき、最終的には中国語の教科書となった。満洲語のみならず、モンゴル語の歴史的研究にとっても貴重な文献群と言える。

現在のところ、我々が知りうる『一百条』系諸本には以下のようなものがある：①智信『Tanggū meyen』（1750刊？満）；②『清文指要・続編兼漢清文指要』（1789刊，満漢）；③富俊『初学指南』（1794刊，蒙漢）；④『新刊清文指要』（1818刊，満漢，④の改訂版）；⑤富俊『三合語録』（1829序刊，満蒙漢）；⑥『Monggo ubaliyambuha tanggū meyen（蒙古翻訳一百条）』（鈔本，満蒙）；⑦富俊『蒙古托忒彙集』所収の『一百条』トド文字訳文（1796序，鈔本，蒙，7話のみ）；⑧『清語要指』（鈔本，漢）；⑨『清文指要漢語』（鈔本，漢，50話のみ）；⑩威妥瑪・應龍田『問答篇』（1860刊，漢）；⑪T. Wade『語言自邇集』（1867初版，漢英）；⑫M. Fraser『Tangu Meyen』（1924初版，満英，①の英訳）。

発表者は共同でこれら『一百条』系諸本の内容を一文ごとに対照させたテキストを作成中である。本発表ではスチンバトが主にモンゴル語及び満洲語・モンゴル語対訳の文献、竹越が主に中国語及び満洲語・中国語対訳の文献を担当し、特定の言語の枠組みを越えて、それぞれの文献がどのような成立過程を持ち、お互いの文献がどのような継承関係にあるのかという問題を検討する。